御 礼

初秋の候 貴下益々ご清祥の段、お慶び申し上げます。

猛暑の夏がやっと過ぎゆき、秋の気配が訪れた二十三日の日曜日、【第十七回奈良県空手道選手権大会・極真カラテ大仏杯】を開催させて頂き、無事成功裡に終幕させて頂くことが出来ました。

様々な角度からご支援ご協力賜りましたすべての皆様方に、心より御礼申し上げます。

今も子供たちには一休さんの愛称で親しまれている一休宗純禅師を知らない方はおられないのではと思います。自由奔放に仏の道この世の道を説き、奇行の和尚と言われながらも数々の言葉を残しました。

花は桜木 人は武士 柱は檜 魚は鯛 小袖はもみじ 花はみよしの

日本人の心はどのような場面やときを経ても変わらぬ孤高のものである。花は茎についたまま萎れて朽ちる西洋花に非ず。百年の元木に春が来れば決してやたらに主張しないそこはかたない美しい花をつけ、潔く散る桜。

人は葉隠武士道にあり。桜の姿に合わせるかのような生きざまこそ又死にざまである。住まい、食物、着物、里 皆どれもが日本人が愛して止まぬ孤高のものとして存在

するのです。これは私の独自の理解ですが、この国に生まれてよかったと思える言葉です。

昨今の国際的な場面では、思わず拳を握りしめ身体に緊張が走る事件が引きも切らず、世界はどこに向かうのかとつい吾を失うようなこともあります。誰もが〔日本人の誇り〕〔武士道に通ずる孤高の精神性〕を失わずに向かってゆかなければならないと思います。

子供たちの未来に陰りがある世の中ではいけないのです。一人ができることは小さくても同じ思いで手を携えて立ち止まらずに前進することが大事です。

子供達ひとりひとりが地球の礎となる明るい未来のために、ひとつひとつの大きな夢の実現のために、手を貸すことが私たちに与えられた使命だと心に誓って、気合を入れ直して歩を進めて参ります。

この度は誠に有難うございました。

平成二十四年十月一日

国際空手道連盟 極真会館 奈良支部

支部長 秦 貴典